

川と海からごみをなくすために

仲井圭二 株式会社エコー／全国川ごみネットワーク nakai@ecoh.co.jp
伊藤浩子 全国川ごみネットワーク・事務局

深刻な海洋と河川のごみ： 世界の海岸はごみ問題に悩まされており、日本国内も例外ではない。有名な観光地でも、行くのが不便で観光に適さない海岸には、多くの海ごみが放置されていることが多い（磯辺ら、2012）。写真に示すように、山形県鶴岡市の海岸ではプラスチック製容器のごみが目立っている。このような海ごみは、決して他国から漂流して来るものだけではなく、国内で発生したものが殆どであり（藤枝、2009）、瀬戸内海では、海岸漂着ごみの66%は、陸域起源であると言われている（図）。

全国川ごみネットワーク： 荒川クリーンエイド・フォーラムは、20年以上荒川でごみを拾い続けているが、川ごみは流域の各所から用排水路を通じて次々と流入し、まだまだなくならない。海洋や河川のごみ問題は、もはや拾うだけでは解決できないと考え、2013年に荒川クリーンエイド・フォーラムが、河川でごみ削減に取り組んでいる団体に呼びかけ、川ごみ対策に向けてのゆるやかな連携・情報交換を開始した。その中で、2015年には「全国川ごみネットワーク」を設立した。2016年からは、全国水辺のごみ調査「水辺のごみ見つけ！」を主催し、多くの市民が身近な水辺のごみに目を向け、川の環境保全への関心を高める活動を行っている。

川ごみサミット： 全国川ごみネットワークでは、2015年の第1回川ごみサミット以来、関係者が集まって議論することにより、この問題の解決方法を模索して来た。2017年3月4日（土）には、京都府亀岡市の京都学園大学で第3回川ごみサミットを開催した。サミットには、当ネットワークと日頃から連携して積極的な活動をされている団体の方々から活動内容をご紹介頂いた。

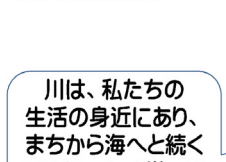
海ごみ・川ごみ問題の解決に向けて： 河川と海洋のプラスチックごみに関する講演会、シンポジウムは最近増えて来た。しかし、まだまだ、関心がある方、同じような顔ぶれのマニアが集まっているということも否定できない。これからは、一般の市民、特に未来を担う子供達に、川と海のごみの実態と、その元になっているプラスチックの安易な使い捨ての構造についての実態を知らせることを通じて、自分達の美しい自然を守って行きたいと考える人々を増やして行きたいと考えている。

川から、 ごみを知ろう！ 減らそう！

全国川ごみネットワーク



荒川(東京都)
出典: NPO 荒川クリーンエイド・フォーラム



保津川(京都府)
出典: NPO プロジェクト保津川



庄内川(愛知県府)

PETボトルリサイクル率

86.9% (2015年) だけと... 27億本は、リサイクルされていない

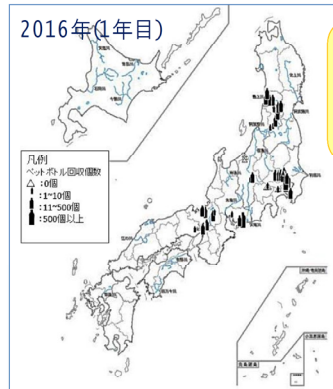


川は、私たちの生活の身近にあり、まちから海へと続くごみについて学べる絶好の場です

川に流入するごみを減らさないと、拾うだけではごみは無くならない！

水辺のごみ見つけ！

= 全国水辺のごみ調査 =



◆調査人数・地点数など
○参加団体(個人) 128団体
○参加人数 9,951人
○調査地点 205地点

水辺のごみを拾い、調査3項目の個数を数えて、報告する「水辺のごみ見つけ！」を実施しています。(拾わないで調査だけの場合は1回のみ)
●個人・団体どなたでもOK! ●水辺ならどこでもOK! ●何度でもOK!

◆1年目(2016年)の調査結果
○飲料ペットボトル : 50,347個
○レジ袋 : 11,343個
○カップ型飲料容器 : 1,049個

◆都道府県別 調査個数

都道府県	飲料 PET	レジ袋	カップ型飲料容器	調査地点数
山形県	1,061	579	224	53
埼玉県	768	235	50	15
千葉県	82	10	27	1
東京都	40,508	6,590	444	78
神奈川県	70	171	81	26
新潟県	0	5	1	12
山梨県	5	0	0	8
長野県	31	49	18	2
愛知県	7,254	3,675	194	3
岐阜県	52	0	0	2
京都府	334	8	0	2
大阪府	172	14	5	2
兵庫県	10	7	5	1
総計	50,347	11,343	1,049	205



全国川ごみネットワークでは、全国の水辺で活動する団体と情報交換し、共に川ごみの問題解決に向かう。解決に向けた方策の検討・立案 → 行動プログラム実施を目指す！



一団体・一河川ではできなくとも、
全国で連携する！

・発信 / 啓発
・ごみの発生抑制
・河川への流入抑制

声を集めて、
根本的な対策を目指す！



ごみで埋まる鶴岡市の海岸
(パートナーシップオフィス提供)



川ごみサミットでのグループ討議



川ごみサミット翌日に開催された
「保津川の日」のエコラフティング



川ごみサミットでの
パネルディスカッション

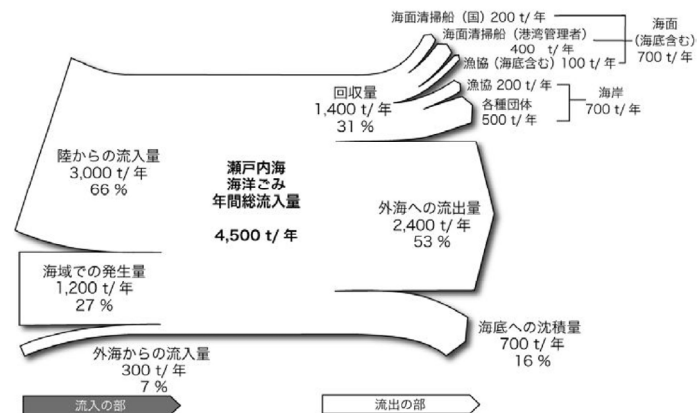


図 瀬戸内海のごみ収支 (藤枝ら、2010)

参考文献

- 磯辺篤彦ら(2012): 漂流・漂着ゴミと海洋学—海ゴミプロジェクトの成果と展開—, 沿岸海洋研究, 第49巻, 第2号, 139-151
藤枝繁(2009): 指定漂着物を用いた瀬戸内海における海洋ごみの流れと起源の推定, 沿岸域学会誌, Vol.22, No.2, 27-36
藤枝繁ら(2010): 瀬戸内海における海洋ごみの収支, 沿岸域学会誌, Vol.22, No.4, 17-29